

クレジット:

UTokyo Online Education 学術俯瞰講義 2016 小島毅

ライセンス:

利用者は、本講義資料を、教育的な目的に限ってページ単位で利用することができます。特に記載のない限り、本講義資料はページ単位でクリエイティブ・コモンズ 表示-非営利-改変禁止 ライセンスの下に提供されています。

<http://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/>

本講義資料内には、東京大学が第三者より許諾を得て利用している画像等や、各種ライセンスによって提供されている画像等が含まれています。個々の画像等を本講義資料から切り離して利用することはできません。個々の画像等の利用については、それぞれの権利者の定めるところに従ってください。



古典は語りかける ガイダンス 古典とは何か

学術俯瞰講義 古典は語りかける

第1回

2016.4.6

小泉信三『読書論』

すぐ役に立つ本はすぐ役に立たなくなる本であるといえる。人を眼界広き思想の山頂に登らしめ、精神を飛翔せしめ、人に思索と省察とを促して、人類の運命に影響を与えてきた古典というものは、右にいう卑近の意味では、寧ろ役に立たない本であろう。しかしこの、すぐには役に立たない本によって、今日まで人間の精神は養われ、人類の文化は進められて来たのである。

小泉信三『読書論』岩波新書、1950年、12頁より引用。
(旧字体、旧仮名遣いは引用者が修正)

池田亀鑑『古典学入門』

刻々と変貌するもの、極端な刺激と興奮に渦巻くもの、そういうものを古典にもとめることはできない。古典というものは、やはり個人の、民族の、人間の魂の原郷につながるものである。そこは人間の平和と自由の世界である。(中略) われわれの現実生活が、変化と、騒音と、艱難との中で、心身ともに疲れきっているときに、古典の意味はいよいよ大きなものとなって、われわれにはたらきかけてくれるであろう。

池田亀鑑『古典学入門』岩波文庫、1991年、228-229頁より引用。

学習指導要領

- 「古典A」の「目標」: 古典としての古文と漢文、古典に関連する文章を読むことによって、我が国の伝統と文化に対する理解を深め、生涯にわたって古典に親しむ態度を育てる。
- 「古典B」の「目標」: 古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。

『高等学校学習指導要領』文部科学省(平成21年3月)15-16頁より引用。
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/kou/kou.pdf

「古典」＝「古文」＋「漢文」

- 「古文」は和文系の文章・作品を対象とする。
- 「漢文」は中国語の文章を訓読という技法を使って日本語として鑑賞する。
- 作者の国籍や母語は問わない。
- なぜ「国語」の一部として教育されているのか
- 西洋文明における Classics (Classical philology) は「西洋古典学」と呼称されている。

「古典の日」宣言

古典とは何か。

歴史と風土に根ざしながら、時と所をこえてひろく享受されるもの。人間の叡智の結晶であり、人間性洞察の力とその表現の美しさによって、私たちの想いを深くし、心を豊かにしてくれるもの。いまも私たちの魂をゆさぶり、「人間とは何か、生きるとは何か」との永遠の問いに立ち返らせてくれるもの。それが古典である。

揺れ動く世界のうちにあるからこそ、私たちは、いま古典を学び、これをしっかりと心に抱き、これを私たちのよりどころとして、世界の人々とさらに深く心を通わせよう。

「古典の日」ウェブサイトより引用。
<http://www.kotennohi.jp/about.html>

「古典の日」推進基本構想

- 一、人は古典によってこそ生きることをあらためて自覚し、古典によって広く世界の知性と共鳴しあう新しい文化創造の運動を起こす。
- 一、古典を読み、書き、聞くななど五感を使って古典に親しむ活動を、児童・生徒・学生をはじめ、男女年齢を問わず、すべての市民に広く深く浸透させる。
- 一、文学・美術・工芸・藝能など幅広く古典を知ることのよろこびを人々の心のうちに広め、やがて「古典の日」を国民共有の日として定着することをめざす。

「古典の日」ウェブサイトより引用。
<http://www.kotennohi.jp/about.html>

古典の日に関する法律

- (目的)
- 第一条 この法律は、古典が、我が国の文化において重要な位置を占め、優れた価値を有していることに鑑み、古典の日を設けること等により、様々な場において、国民が古典に親しむことを促し、その心のよりどころとして古典を広く根づかせ、もって心豊かな国民生活及び文化的で活力ある社会の実現に寄与することを目的とする。

衆議院ウェブサイト「古典の日に関する法律 第一条(目的)」より引用。

http://www.shugiin.go.jp/internet/itdb_housei.nsf/html/housei/18020120905081.htm

古典の日に関する法律

- (定義)
- 第二条 この法律において「古典」とは、文学、音楽、美術、演劇、伝統芸能、演芸、生活文化その他の文化芸術、学術又は思想の分野における古来の文化的所産であって、我が国において創造され、又は継承され、国民に多くの恵沢をもたらすものとして、優れた価値を有すると認められるに至ったものをいう。

衆議院ウェブサイト「古典の日に関する法律 第二条(定義)」より引用。

http://www.shugiin.go.jp/internet/itdb_housei.nsf/html/housei/18020120905081.htm

古典の日に関する法律

- (古典の日)
- 第三条 国民の間に広く古典についての関心と理解を深めるようにするため、古典の日を設ける。
 - 2 古典の日は、十一月一日とする。
 - 3 国及び地方公共団体は、古典の日には、その趣旨にふさわしい行事が実施されるよう努めるものとする。
 - 4 国及び地方公共団体は、前項に規定するもののほか、家庭、学校、職場、地域その他の様々な場において、国民が古典に親しむことができるよう、古典に関する学習及び古典を活用した教育の機会の整備、古典に関する調査研究の推進及びその成果の普及その他の必要な施策を講ずるよう努めるものとする。

衆議院ウェブサイト「古典の日に関する法律 第三条(古典の日)」より引用。

http://www.shugiin.go.jp/internet/itdb_housei.nsf/html/housei/18020120905081.htm

中島隆博・齋藤希史ほか編 シリーズ キーワードで読む中国古典

『論語』などがブームだが、中国の古典について、われわれは何を知っているだろうか。本シリーズは中国文学、中国思想研究の第一人者たちが編集するいわば「キーワード集」であるが、(中略)哲学、文学、芸術、嗜好など幅広い題材から必読の文献を選び、原典から適宜抜粋して原文と翻訳の対照ができるように配置して、論じていく。本シリーズは、「古典入門」として位置づけつつも、キーワードで〈読む〉こと、論じることを主眼にしており、ガイドブックや解説書とは一線を画す。中国だけでなく日本を含めて「近代」そのものを問い直し、本質主義から脱却するために古典を読む。古典への回帰や再生ではなく、古典による転回を行いつつ、現在の「知」について批評的であろうとする。

中島隆博・齋藤希史ほか編『シリーズ・キーワードで読む中国古典』法政大学出版局、2015年～刊行中
以下から引用 http://www.h-up.com/wp/wp-content/uploads/2015/08/chirashi_chugokukoten_01.pdf

西洋古典学

- 日本西洋古典学会は、日本における西洋古典学(ギリシア語・ラテン語で書かれた哲学・歴史・文学、古代の美術・考古学を研究対象とします)の振興を目的として1950年に設立されました。

日本西洋古典学会ウェブサイトより引用。
<http://clsoc.jp>